学校番号	325

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	化学基礎　改訂版　（啓林館）						
副教材等	改訂ニューステップアップ（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書を中心にして、できるだけ身近な現象を例にあげ、わかりやすい演示実験、生徒実験で理解を進める。また、適切な問題演習を通して理解を深める。

2　学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識を持って観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	身の回りの現象に興味・関心を持ち、科学的に探求しようとする。	原理や法則を理解し、身近な現象に対して的確に考察・判断・予測ができる。	観察や実験の結果を正しく分析・考察して、的確に表現できる。	基本的な概念を理解していて、原理や法則、公式を活用できる。
評価方法	学習状況の観察 ノートの記述	学習状況の観察 ノートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 実験の記録 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 実験の記録 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	物質の構成	純物質と混合物			○		a:身の回りの物質の成り立ちやその成分について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 b:身の回りにある事象を、得られた化学的な知識を用いて考察・表現をすることができる。 c:ガスバーナーの使い方やろ過の方法など基本的な実験操作を習得できる。 d: 原子やイオンが電子の動きと関連付けて理解できる。	学習状況 ノート 実験 定期考査
		物質とその成分	○					
		粒子の熱運動と物質の三態		○				
		原子の構造と電子配置				○		
		イオン				○		
		元素の周期表			○			
		化学結合		○				
		物質の分類		○				
2学期	物質の変化	原子量･分子量･式量				○	a:身の回りの酸性塩基性の物質について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 b:化学反応式を理解し、反応する物質の量的関係について判断・考察することができる。 c:中和滴定の実験操作を習得し、得られた結果から考察することができる。 d: 原子の相対質量・物質量が理解できる。	学習状況 ノート 実験 定期考査
		物質量				○		
		化学反応式の量的関係		○				
		酸と塩基	○					
		水の電離とpH				○		
		酸･塩基の中和と塩			○			
3学期		酸化と還元				○	a: 身の回りの酸化還元反応について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 b:酸化剤と還元剤の働きを理解し、全体としての酸化還元反応について考察・表現することができる。 c:実験操作が習得できている。得られた結果を適切に観察・考察することができる。 d:酸化と還元の定義を正しく理解できる。	学習状況 ノート 実験 定期考査
		酸化剤と還元剤		○				
		金属の酸化還元反応			○			
		酸化還元反応と人間生活	○					

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。